

【学生フォーラム】

岡崎げんき館の子育て支援とげんきクラブの可能性

岡崎女子短期大学 幼児教育学科 林陽子ゼミナール

藤田麻美、堺 綾子、北岡愛子、金原理恵、大島望美、戸谷優梨香、梶原由加利

概要

本報告は、林陽子ゼミナールでおこなわれている、岡崎市の子育て支援事業のサポート活動である。現在、岡崎市では「岡崎げんき館」設立が行われており、その事業の一環として子育て支援があり、私たちは、その子どもサポート部会の一員として事業にかかわっている。

また学内に「げんきクラブ」を設立し「岡崎げんき館」が提供する「げんきカレンダー事業」の実施に向けて力を注いでいる。

今後の課題として、「げんきカレンダー事業」をより良いものにしていくために、市民ニーズに合ったサービスを探っていこうと考えている。

はじめに

まず、私たちが関わってきた岡崎げんき館の紹介、活動主体となっているげんきクラブの組織構成について解説していく。

(1) げんきクラブ

げんきクラブとは、岡崎女子短期大学を拠点に活動する『岡崎げんき館子ども育成事業げんきカレンダー事業実施サポートグループ』の略称である。岡崎げんき館におけるげんき広場事業の中でも特にげんきカレンダー事業の支援を目的として取り組んでいる。林陽子ゼミナールの7名を中心に活動を開始し、現在では約20名で活動をしている。

(2) 岡崎げんき館

岡崎げんき館は、「元気と活力を創造する拠点作り」を施設整備目標として、3つの基本テーマを掲げている。

「健康」の創造・・・健康なからだ、健康な生活、健康な社会活動の実現といった視点から総合的な取り組みを図ること。

「交流」の創造・・・子どもから高齢者まですべての世代の人々が触れ合うことのできる施設づくりを目指す。

「にぎわい」の創造・・・健康、交流の基本テーマと共に、地域活性化を図り「にぎわい」の創造を目指すことである。

設立の経緯として、旧東海道の沿道にあり商店街や住宅地といった賑わいを担ってきた経緯も含めた市民病院跡地の整備、そして安心して暮らせる人にやさしいまちづくりとして保健医療の充実を図るという背景がある。

市は、これらの背景と市民が行政サービスに求める意見を反映させ、「元気と活力を創造する

拠点づくり」を目標とし岡崎げんき館をつくることになった⁽¹⁾。

1. 岡崎げんき館の子育て支援の位置づけ

(1) 岡崎げんき館の事業内容

岡崎げんき館は上記3つの基本テーマをもとに4つの事業により構成される複合的支援事業となっており、その事業を実施するに当たっては4つのゾーンを設けている。そして、子育て支援は、その中の一つの柱として存在する。

保健衛生ゾーン・・・ここでは、主な機能として、保健所事務室、相談室など。

健康づくりゾーン・・・このゾーンでは、健康増進プール、屋外ジャグジーやトレーニングジムなど

子ども育成ゾーン・・・子育て支援室、プレイルーム、おもちゃ図書館など

市民交流ゾーン・・・情報ライブラリー、市民ギャラリー、市民活動室・和室など

2. 私たちの活動

(1) げんきカレンダー事業の活動

子育て支援として展開されるげんきカレンダー事業は、親子が楽しめる遊びや体験を提供する3種類のプログラムから構成されている。なお、カレンダーという名称については、季節に応じてプログラムを構成していることに由来している。

げんき講座・・・3歳くらいまでの乳幼児とその親を対象に、親子で楽しめる遊びを提供していく。5月～12月の間に月1回、会員制を計画している。

共催事業への参加・・・市が主催するお祭りなどで来場者の子どもに向けた遊びを提供し、市民のニーズや遊びの提供方法など、げんきカレンダー事業のさらなる発展に向けた情報収集の意味合いも兼ねた活動となっている。

げんき講座特別プログラム・・・げんき講座をより多くの市民に提供するため、幅広い年齢の子どもにむけて遊びを提供するものがある。現段階では、8月に夏休みを利用して開講するものや、クリスマス会などが検討されている。

これら3つのプログラムから、子どもの遊び力、係る力を養い、事業目的である『心身ともに健やかな子どもの育成』を目指している。ただし、これらの内容については、平成18年度のげんきクラブの活動により考案された事業内容であり、以降の活動により、さらに改善されていくものと考えられる。

(2) 市民会議への参加

げんきクラブは、岡崎げんき館市民会議のなかでも、子どもサポート部会に所属しており、げんきカレンダー事業を進行するにあたって子どもサポート部会と問題点、実施方法などを話し合い、そこでの課題をクラブに持ち帰って議題として検討を進めてきた。今年度は、2003年度から2005年度までのげんきカレンダーを基盤に改善し、クラブメンバーの要望の加味などを繰り返すことで、より具体的、現実的なカレンダー事業の展開を目指した。なお、これは現在のげんきクラブの活動の基盤となっている活動でもある。

(3) おかざき市民まつりへの参加活動

11月4日、5日に行われた、おかざき市民まつりへの参加活動がある⁽²⁾。岡崎げんき館での運営参画に向けて、げんきカレンダー事業を実験的に実施することを目的に、「縁日の遊び」をテーマにしたぶんぶんゴマ制作、わなげ、バルーンアートを提供した。この取り組みでは、げん

きカレンダー事業の実施に向けて、人気の高い遊びや親子のニーズにあった遊びを常に模索していかなければいけないことを学んだ。

(4) 岡短祭での紙芝居実演

11月11日、12日の岡短祭(岡崎女子短期大学の大学祭)での紙芝居実演がある。げんきクラブの1年生5名が岡短図書館で子どもに向けた紙芝居の実演をし、個人スキルの上達や子どものニーズを知ることが出来た。また、岡崎げんき館ならびにげんきクラブの宣伝活動としても有効であった。

(5) 根石学区市民ホームでのクリスマスイベント

12月17日の根石学区市民ホームでのクリスマスイベントとして、本学図書館と協働し、根石学区内の未就学児から小学生までを対象に行った活動で、午前から終了時までクリスマス絵本の展示、午後からはクリスマスツリーのオーナメント制作、折り紙制作、絵本・紙芝居の読み聞かせをおこなった⁽³⁾。

子どもサポート部会ではなくげんきクラブとして行った初の活動であり、広報活動は市民ホーム・子どもの家にチラシを置いたり、回覧板で報告したりすることで対応した。この活動によって、子どもへの関わり、広報の方法、など多くの課題を手に入れることが出来た。

まとめ

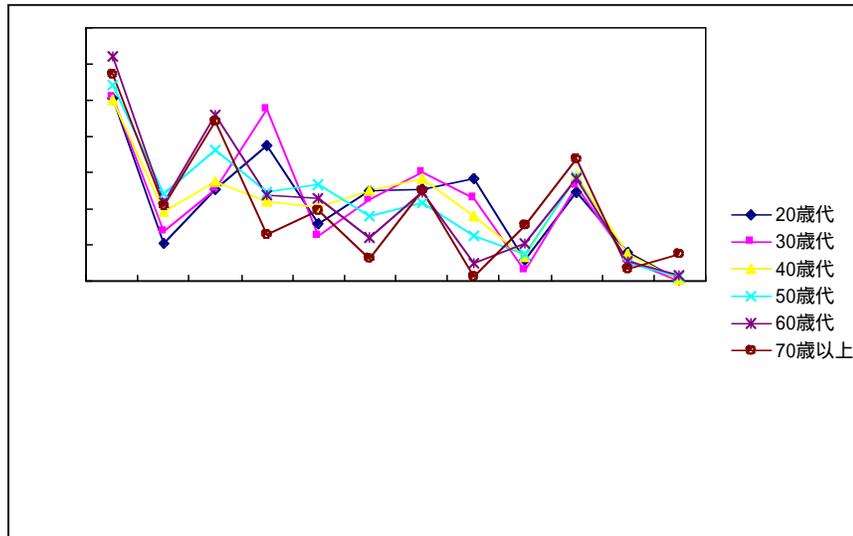
以上の支援活動から、今後の課題として私たちは子ども育成ゾーン利用者が必要としているサービスを把握することが大切であり、サービスを把握した中で私たちが行うことの出来る、最も望まれているげんきカレンダー事業支援を行うことが大切だと考えている。

また、げんきカレンダー事業の利用者だけでなく、岡崎げんき館利用者全体が、遊びからこころとからだの健康づくりを出来るように、ほかのゾーンと連携していくことが大切であるといえる。

最後に、ご指導をいただいた林陽子先生をはじめ、岡崎げんき館の関係者の方々にこの場を借りてお礼を申し上げます。

注

- (1) 岡崎げんき館に求められている機能
平成 14 年岡崎市役所企画課調査結果より作成



このグラフは岡崎げんき館にどのような機能があれば利用したいと思うかという問に対する市民の声である。

グラフから、健康チェック、温浴施設、健康食のレストランがどの年代も関心がある事が分かる。年代別に見ていくと、50代から70代以上では専門家による健康指導を求める割合も高い。子育て中にあたる、20代・30代からは子育て相談や遊戯室などの施設を利用したいという声が多い。年代別に抱える問題に関係した施設を希望する声が多い事が見て取れる。

- (2) 市民まつりでの活動風景



市民まつりでは、自分で作って遊ぶことができるぶんぶんゴマが特に人気であった。

わなげは景品のあり方について考えるきっかけにもなったと思う。

バルーンアートは様々な形に変わる風船に対して、興味津々といった子どもの様子が見られた。

(3) クリスマス会の活動風景



クリスマス会は宣伝活動の不足のため、参加者が少なめであったが、その分、子どもたちへきめ細かな対応をすることが出来た。

終わりにはサンタが登場し、一緒にゲームをしたり、帰り際にはプレゼントを配ったり、夢を与えるようなイベントとした。